

「公共建築の日」 2019 フォトコンテスト審査結果・講評

「公共建築の日」フォトコンテストは、平成15年に第1回が開催されて以来、毎年「公共建築」を題材とした作品をご応募いただいております。

今年は、「ひとつがどうたてももの」をテーマとして、四季を通して公共建築を舞台に人々が集う写真を募集し道内外各地から多数の作品をご応募いただきました。

公正な審査の結果、入賞作品を決定いたしましたので、お知らせします。

審査委員 全体講評

17回目を迎えた「公共建築の日」フォトコンテストは、124点もの力作が寄せられました。参加者の年齢構成は10代から70代までと幅広く、道内はもとより道外からの参加もあり、このコンテストが広く認知されてきたことを感じます。

賞に上らなかったものの中にも優れた作品が多く、バラエティーに富み全道各地の地域性があり興味深いものでした。作品のレベルも年々上がっていて、審査員を悩ませながらも、楽しく、かつ厳正に審査が行われました。

次回も公共建築と人々のふれあいを表現した力作を期待しております。

(入賞者名:敬称略)

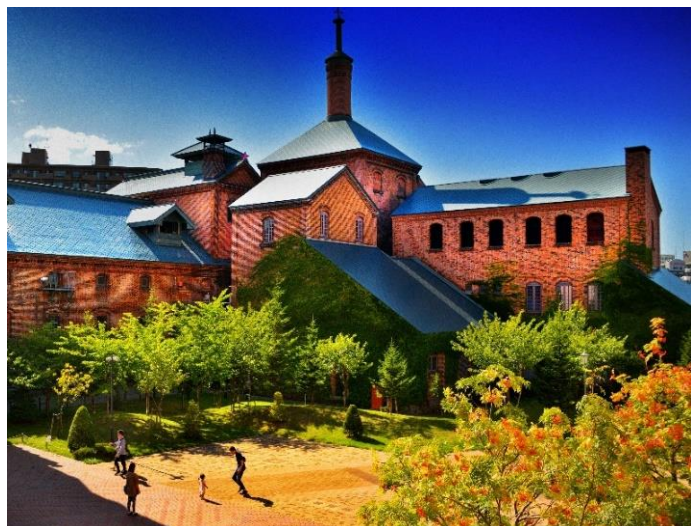
デジタルカメラ部門

★★★グランプリ

山内 佳子

「暮らしと共に」

施設名:札幌ビール博物館



◆審査委員講評

画面構成が素晴らしい。敷地の中の小高い位置から撮影したアングルが効果的。

建物に当たっている光のとらえ方が非常に上手く、全体が温かいという印象で空の色の青も際立っている

★★準グランプリ

佐竹 輝昭

「近未来への展望」

施設名：札幌市青少年科学館



◆審査委員講評

周りを緑で縁取っている構図で、空の青と建物の対比がきれい。

人の流れと視線が合っていて、子どもが未来に向かって進んでいく印象を受け、タイトルとピッタリ。

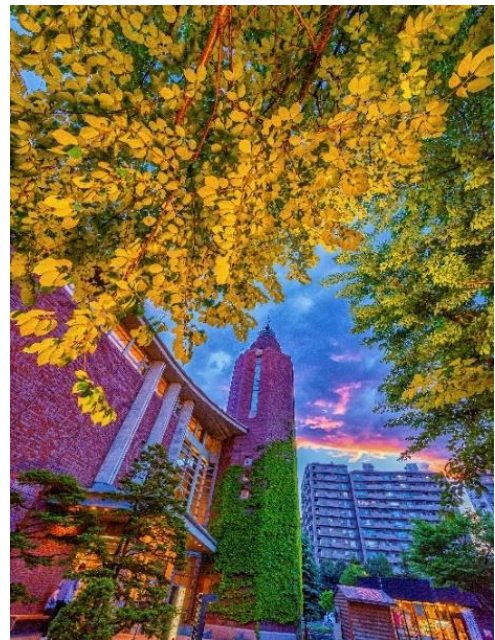
★★準グランプリ

久野 穰

「新旧の黄昏時」

施設名：サッポロビール園

(サッポロビール博物館)



◆審査委員講評

紅葉の黄色とレンガの赤がうまくマッチしている。下から見上げた塔が真ん中にきている構図が素晴らしい。

新しい建物をあえて右下に入れて、新旧の対比という狙いも面白い。

★佳作

佐藤 靖

「朝日と百年記念塔」

施設名：百年記念塔

◆審査委員講評

風雪に耐えた記念塔が非常に良く表現されている。
逆光の画面処理も上手く、あえて色を抑え、朝の冷たい空気感が凜とした印象を受ける。



★佳作

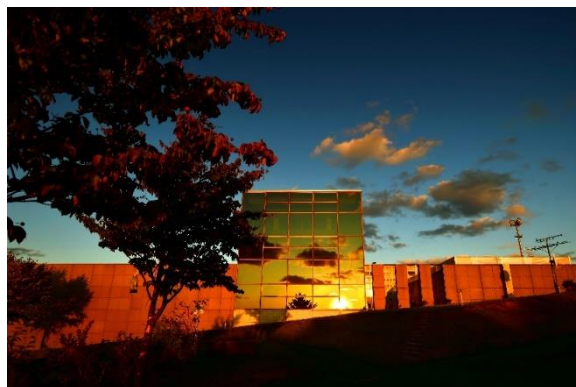
土門 明

「美術館の落日」

施設名：西村計雄記念美術館（共和町）

◆審査委員講評

ガラス面に反射した夕陽がドラマチック。
撮影時間帯と撮影タイミングに労苦が偲ばれる。新しく非常にめずらしい写真。



★佳作

石川 史

「木と戯れる休日」

施設名：カムイの森公園わくわくエッグ

◆審査委員講評

木のぬくもりと日射しと人のぬくもりが伝わってくる作品。
屋根の構造材をさりげなくしっかりと表現しているところも評価できる。



★佳作

長岡 秀文

「一刻歩みを止めて憩う」

施設名：札幌地下歩道

◆審査委員講評

撮影対象は、近代的なものと歴史的なものの組み合わせ。奥行感、円柱、天井など、デザインした人が見て欲しいところを表現しつつしていると思われる。



携帯・スマホ部門

★★★特選

佐々木 郁太郎

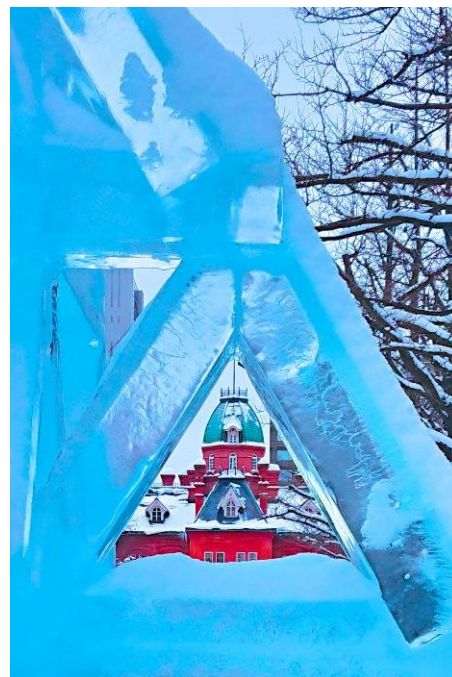
「真冬限定の絶景」

施設名：北海道庁

◆審査委員講評

画面の構図が非常に大胆。氷の向こう側に道庁が見えて、道庁の赤と氷のブルーというコントラストもみごと。

画面構成の大胆さとコントラストが面白くて印象的な作品である。



★★入選

野嶋 由希

「青空と輝き」

施設名：札幌ドーム

◆審査委員講評

ドームのシルエットがうまく表現されている。

空の色もきれいで、撮影の時間帯も良い。



★★入選

中村 佳弘

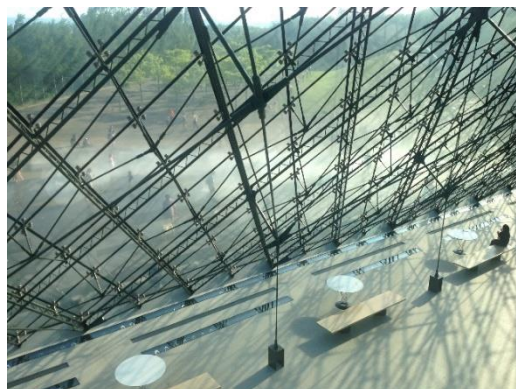
「夏・ガラスの向こうはミストで煙る子供の世界」

施設名：モエレ沼公園・ガラスのピラミッド

◆審査委員講評

上から見下ろすアングルが斬新でミストもよく出ている。良く観察している。

賑わいを外にもってきているところも面白い。



★★入選

平田 美穂

「円形の学校」

施設名：室蘭絵鞆小学校

◆審査委員講評

かなり前に廃校となり取り壊しが
予定されている絵鞆(えとも)小学校。

撮影アングルも良く人物の配置も良い。
歴史に残る1枚。



★奨励賞

伊賀 理恵

「道」

施設名：北海道庁

◆審査委員講評

オーソドックスな写真であるが、「道」と
「道庁」を掛けたと思われるタイトルが印象的。

道庁赤レンガは改修工事の予定があり、
記念に残る作品。



★奨励賞

近藤 絹子

「“北海道酪農の父”=エドウィン・ダン」

施設名：エドウィン・ダン記念館

◆審査委員講評

逆光でありながら木造壁のディテールが白
くきれいに表現されているところが素晴らしい。



★奨励賞

小野 高秀

「夏の午後、それぞれの空間」

施設名：さっぽろ創世スクエア

◆審査委員講評

よくこのアングルを見つけたなと感心させられる。
構図の作り方が面白い。



■フォトコンテスト審査

開催日：令和元年10月23日（水）

開催場所：セントラル札幌北ビル 6階会議室

審査員：公社）日本写真家会員 写真家 佐藤 雅英
（敬称略） 国土交通省北海道開発局 営繕部長 増田 正一
北海道建設部 建築局 建築整備課長 山口 元
札幌市都市局 建築部 建築保全課長 都築 一雪



事務局より

「公共建築の日」フォトコンテスト事務局を公共建築協会北海道地区事務局がパトントッチして2年目です。

応募総数124点で昨年とほぼ同じの応募をいただきホッとしました。ただ、デジタル部門が94点に対して、携帯・スマホ部門が30点と伸び悩んでいます。当フォトコンが写メールから始まっている歴史を思うと携帯・スマホ部門の応募数を増やすための工夫が課題であると感じています。

応募作品は、どれも素晴らしく力作ぞろいで、審査委員を悩ませることとなりました。審査を進める中で「タイトルも作品のうちです」という審査委員長のお言葉が強く印象に残りました。

（北海道地区事務局長 須藤光幸）